

# 器 臓 の 黙 沈

# 肝 臓



美濃病院は、美濃地区の肝炎対策に取り組むために、肝臓専門医による専門外来を開設しました。検診や人間ドックで肝炎ウイルス陽性を指摘された方や肝機能異常（GOT、GPT、γGPT、T・B-īなど）を指摘された方は、肝臓外来へご相談ください。

## 肝臓とは

肝臓は人体最大の臓器です。肝臓は代謝の中心臓器で、タンパク質、脂肪、炭水化物などは腸管から吸収され、門脈を経て肝臓に運ばれます。そこで必要な物に合成され、また不要なものは処理され（解毒作用）、多くは胆汁として胆管に排泄されます。またホルモンやビタミン、鉄・銅・亜鉛などのいわゆる微量金属の代謝にも関与しています。

## 肝臓病の症状

肝臓は予備能力が高く沈黙の臓器と言われるように、慢性肝炎になってもほとんど自覚症状がなく、肝硬変や肝臓になっても自覚症状のない患者さんが見られます。肝炎では、全身倦怠感、疲れ易くなる、食欲低下などが一般的で、黄疸は急性肝炎の約半数に見られますが、慢性肝炎では比較的稀で、慢性肝炎で黄疸の出現を見た場合は、肝炎の急性増悪あるいは薬物性肝障害などの肝障害を合併していることがあります。黄疸のある患者さんは、尿の色が黄褐色のことが多く、尿の濃染に気づいた時には肝障害の可能性が高いです。また、急性肝炎では38℃前後の発熱を見ることが多く、風邪と間違われることがあります。

わが国で最近注目されている3大肝疾患は、B型肝炎、C型肝炎、非アルコール性脂肪性肝疾患です。特にC型肝炎ウイルスは高率に肝硬変、肝臓に移行するため、注意が必要です。1975年以来、年々C型肝炎

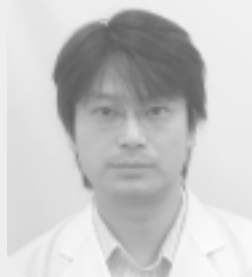
ウイルス（HCV）持続感染者からの肝臓が増加し、2015年頃までは増加傾向が続くと想定されています。

## 肝 臓 外 来

第1・3月曜日 14:00~17:00

～C型慢性肝炎などでお悩みの方に～

大学病院との連携、協力体制により最新の治療を受けることが可能です。一度ご相談ください。



末次 淳 医師  
岐阜大学第1内科  
消化器病態学

# 肝 臓 外 来 を 開 設

## C型慢性肝炎とは

C型慢性肝炎とは、C型肝炎ウイルスの感染により、6ヶ月以上にわたって肝臓の炎症が続き、細胞が壊れて肝臓の働きが悪くなる病気です。初期にはほとんど症状はありませんが、放置しておくと、長い経過のうちに肝硬変や肝臓に進行しやすいことが知られています。現在わが国には100人に1～2人の割合で、C型慢性肝炎の患者さん、あるいは本人が気づいていない持続感染者がいると推測され、21世紀の国民病とまでいわれています。

## 感染経路

C型肝炎ウイルスは血液を介して感染します。空気感染や経口感染はありません。現在わが国の感染者の多くは、C型肝炎ウイルスが発見される前の輸血や血液製剤、あるいは注射針が使い捨てになる前の注射針の使い直しなどで感染したものと考えられます。現在ではこのような原因で新たに感染することはほとんどありません。

問題になるのは、ピアスや入れ墨、あるいは不衛生な状態での鍼治療などです。また、性交渉感染や母子感

染(母から子への感染)はごくまれとされています。

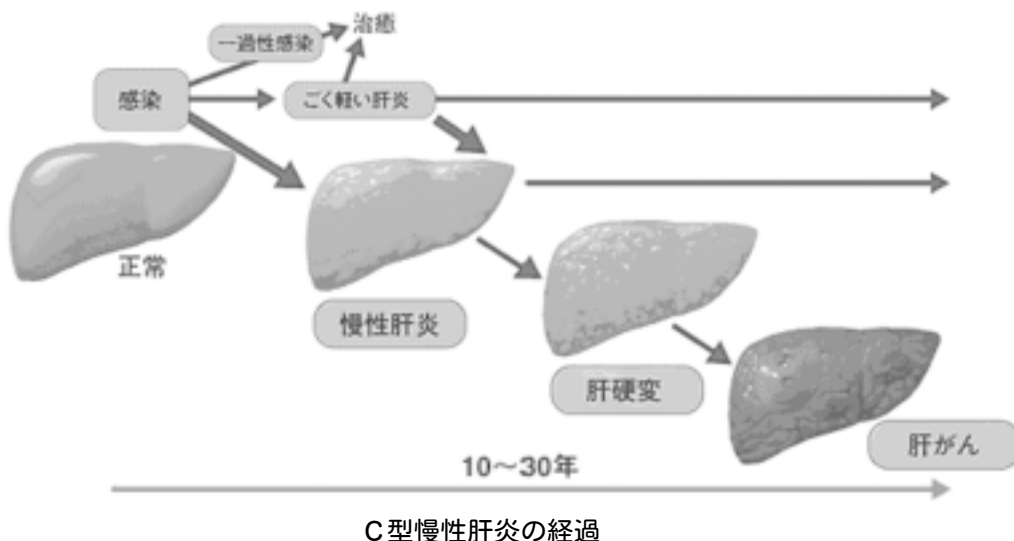
## 経過

C型肝炎肝炎の約7割は徐々に病気が進行し、治療しないと10～30年でその3～4割が肝硬変、さらに肝臓に移行するといわれています。長期間の炎症で肝臓の細胞が壊れ、それを埋める形で繊維成分が増加し、肝臓が硬くなってしまいう状態が肝硬変です。肝硬変になると肝臓が発生しやすくなるだけでなく、食道静脈瘤の破裂や肝性脳症など、生命に関わる重大な合併症が起こりやすくなります。

## 治療法

C型肝炎肝炎の治療法には、インターフェロンなどを用いて肝炎ウイルスを体の中から排除して感染からの治癒を目指す原因療法と、グリチルリチン配合剤(注射薬)またはウルソデオキシコール酸(内服薬)などを用いて、肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ対症療法(肝臓保護療法)があります。

最近では週1回の注射で優れた効果を示すペグインターフェロンという新しい製剤も登場しています。



# C型慢性肝炎

